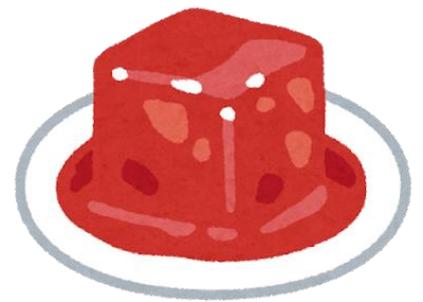


小林製薬のサプリメントによる健康被害の続報についてのお話

暑い、と感じる日が増えてきていますね、インドでは50℃になったところもあるとか。ティープロは涼しくて良いのですが、あんDoの家では運悪くエアコンが故障していて、熱中症に気をつけながら生活しています。朝に気温が上がってくると、寝ていられないのがつらいところです。

さて、今年の3/28のつぶやきで、小林製薬のサプリメント（機能性表示食品）による、健康被害のニュースをとりあげました。紅麴という菌類（カビやキノコのなかま）を利用したサプリメントを食べた人たちの一部が、腎臓などに障害を受け、死亡者も出る、という大きな事件でした。その後の調査により、サプリメントに青カビなどによって作られる「ペベルル酸」という毒成分が含まれていたこと、それが原因とは断定できないが、ペベルル酸によって今回の被害者と同様の障害が起こりうる、ということがわかりました。また、サプリメントを作っていた工場から、ペベルル酸を生産する青カビが発見されていて、サプリメントの生産過程で、紅麴に青カビが混入した（混ざった）のではないかとされています。



沖縄の豆腐よう（紅麴を使って作られる食品の1つ）

みなさんも学年が上がっていくと化学や生物の実験を行うことが増えていきますが、それらの実験でも、予定外の物質が混入することによって、実験がうまくいかなかったり、予想外の結果が出てしまったりすることがあります。このような混入はコンタミネーション（略してコンタミ）と呼ばれ、実験室の嫌われ者です。医学の分野でも、患者からとった検体（病気かどうかの判断などに使う、体の一部の試料）に混入があると、使用する薬や、手術の判断に間違いが発生する可能性があります。今回の事件もそうですが、人の命にかかわることになりかねないので、お医者さんや研究者を目指している人は、特にこの事件をおぼえておいて欲しいですね。



24/5/30 （納豆を食べたら酒蔵には入れない） あん Do

参考

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%82%A6%E3%82%B8%E3%82%AB%E3%83%93>

（Wikipedia のベニコウジカビのページ）

